

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日：平成25年1月31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771900913		
法人名	社会福祉法人 慶生会		
事業所名	北条グループホーム		
サービス種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府大東市北条7丁目4番1号		
自己評価作成日	平成25年1月31日	評価結果市町村受理日	

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 カロア		
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33 カロア大阪事務局		
訪問調査日	平成25年 2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>◎事業方針</p> <ul style="list-style-type: none">・利用者自身が主人公となり、一人ひとり個性豊かな生活を過ごすことができるグループホームを目指します。・利用者・家族が「ここに来て良かった。」と思って頂けるよう、職員は、認知症ケアのプロとしての専門性と共に、生活(生き生きとした暮らし)をサポートする能力を高めます。・地域における縁側の様な場所(トポス)となるように、地域の方との日々の交流、地域行事への積極的な参加、施設行事への参加促進等、なじみの関係づくりに努めます。 <p>◎ネットワーク構築</p> <ul style="list-style-type: none">・平成24年4月より、管理者変更。開設当初の施設長が再度就任。・大阪府認知症介護指導者、大阪府認知症キャラバン・メイト連絡会副会長、認知症介護指導者大府ネットワーク大阪府代表世話人・大東市だけでなく、大阪府・他府県市区町村との認知症に関するネットワーク構築。 ※今後さらに、法人内、他事業所、地域等への「認知症普及・啓発活動(フィードバック)」検討中。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>○ご利用者一人一人がグループホームで主人公となり、個性を表現して生活できるようにご利用者、家族の意見や要望を聞き取り、職員の意見も考慮して豊かな生活を実現するために施設長を始め職員が一丸となって取り組まれている姿勢を感じました。ご利用者が不安なく安心して暮らせるように努めています。 ○職員がいきいきと仕事ができるように、意見を出し合い運営に反映できる体制を作っています。また職員が希望する研修を受講し、費用も全額補助する体制があり、職員のスキル向上と意欲の向上に努めています。 ○地域とのつながりを大切にされ、自治会への参加、地域行事への参加・協力等を日常的に実践されており、運営推進会議での家族の参加が10名～15名と非常に多く、ご家族との良好な関係作りに努めておられます。</p>
--

【グループホーム 2階 (ユニット①)】

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年事業計画作成。事業方針の中で、地域密着型サービスとしての理念を入れている。 ・年度初めに、事業計画（理念）に対する研修の機会を設けて、パート職員含めて周知し、意識づけを行っている。 ・品質方針、理念等をフロアに掲げ、職員への周知（品質向上）に取り組んでいる。 	事業所と地域の方々とのつながりを大切に考えておられま す、職員全員が理念を周知 し、フロアごとにも理念を基 に目標をあげ、ケアの向上に 取り組まれています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入（辻之町20組組長） ・職員の出退勤・利用者散歩時、地域の方々へ積極的に挨拶・言葉かけを行っている。 ・地域の盆踊り、野崎参り、秋祭り（地車曳き）等の地域行事に参加し交流を深めている。 ・幼稚園、小学校、中学校等の交流（慰問、行事への参加、体験実習受入）も行っている。 ・自治会の催し（総会、消防訓練、歳末警戒）に職員（管理者等）が参加している。 	自治会に加入され、地域の方々と常に交流を深めています。又近所の方から頂きものがあつたり、ホームに招いたり大変良好な関係を築いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームかかりつけDrより、医療に関する知識を、研修通じて地域の方々へ発信。 ・地域の秋祭りには、地域の方々の休憩場所として、敷地内駐輪場を開放している。 			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議において、利用者、家族の意見・要望を聞いたり、利用者の日常生活の様子を写真等で観ていただく機会を設けている。 ・意見・要望のあったものは検討し、その結果について、報告書送付し回答している。 	2ヶ月に一度の運営推進会議には多くの家族が参加され、行事やケアについても話し合いが持たれています。意見や要望についても検討し必ず回答されています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・制度改正に伴う課題等、市に相談している。 ・認知症介護実践研修、厚労省・大阪府からの通知等、FAX並びにメールにて情報提供あり。 ・管理者…大阪府認知症介護指導者。大阪府認知症介護実践研修他、研修講師等。大東市でも、今年度サポーター養成2回。 	管理者が大阪府認知症介護指導者で市町村でも講師をされたり、ホームでのケアの実情等を相談したりと日頃から協力関係を築いています。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修や会議にて、職員へ周知。 ・身体拘束廃止にかかるマニュアルを掲示。 ・日常のサービス提供時、身体の動きの制限だけでなく、言葉のブロックも身体拘束になり得ることを伝達。 ・玄関やベランダ、エレベーター等の出入口は、スリーキーにて管理している。 ・1階事務所でも、エレベーター内モニターチェックや、降りてこられた利用者への対応を行っている。 	<p>全職員が周知しマニュアルの掲示もされています。言葉がけにも配慮し、ベッド柵においても1人ひとりの利用者に対応された取り組みがなされています。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修にて、虐待について周知している。 ・事務所内に、関連する新聞記事等掲示。職員への回覧もしている。 ・内出血発見に対して、事故報告書へ記入。原因の解明と再発防止に努める。家族への報告も行っている。 		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修にて、権利擁護について周知している。 ・正面玄関にいつでも誰でも閲覧できるようパンフレット等設置している。 		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・契約をする前に必ず見学して頂き、グループホームの生活の様子、雰囲気、サービスの実情を確認して頂いている。無料見学体験も実施している。 		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で利用者の言動から気持ちを理解するように努力。表現が困難な方に対しては、表情・以前の生活状況等から見極め、職員間で周知し本人の意向に沿った援助を行っている。 ・家族にもこまめに報告、相談行っている。 ・フロア入口に苦情・相談・要望を受け付けるご意見箱を設置。苦情受付について掲示。 ・面会、随時の電話連絡にて、日頃の様子を職員から伝えコミュニケーションを図っている。 ・1年に1度、家族へのCS調査実施。 ・運営推進会議にて、毎回意見交換の時間設定。 	<p>フロアの入口に苦情・相談・要望を受け付ける意見箱を設置しています。C・S調査を行ない、家族からの貴重なご意見に対してしっかりと向き合いサービスの向上に努めています。また、面会時にお声がけして、意見や要望の把握に努め、運営に反映させておられます。ご利用者の意見に日頃から耳を傾け、積極的に聞き取りを行い、実現できるように取り組んでおられます。</p>	

11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月フロアリーダー以上の職員が、個人面談を実施。職員の意見を聞きとっている。 ・面談内容は一定以上の職員が共有し、フォローアップに努めている。 ・年2回、施設長との個人面談を実施。 ・ケース会議や業務改善会議等を開き、職員が意見交換をする場を設けている。 	<p>管理職との面談が年数回実施され、会議やカンファレンスも定期的に行い、職員との意見交換の場を多く持たれています。出された職員の意見を検討し、運営に反映出来るように努めています。職員の希望する研修にも参加出来る体制が整っています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスに対応した教育制度を導入。職務能力制度、人事考課制度、賃金制度の連動が、資格取得、能力向上への動機づけとなっている。 ・人事考課制度により、職員の能力、課題把握。 ・資格取得や能力向上向上が認められた職員に対しては、職能力制度の等級が上昇。職務能力制度の等級は、賃金制度内の賃金俸給表と連動しており、俸給表のランクが自動的に上昇。 ・ストレスチェック（年1回）、職員健診（年2回）実施。法人全体でも、職員の心身の状態把握に努めている。 		
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内で年間の内部研修を立案、毎月実施し、職員のスキルアップに努めている。 ・研修に参加できない職員には、報告書や資料等により伝達（周知）している。 ・新人職員育成計画並びにスキルチェック導入。上司評価だけでなく、自己の振り返りを重視。 ・通信講座、法人職員による資格取得支援講座、奨学金制度による「自己啓発の推奨」 ・自己目標に対する達成を目的とした「外部研修」等、一流のプロ集団、スペシャリストの養成を図り、職員の成長と自己実現をサポートしている。 		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣グループホームと意見交流を行っている。 ・認知症サポーター養成研修の講師依頼あり。大東市だけでなく、他市とのネットワークも構築している。 ・法人全体で、（グループホーム）サービス等について、協議・意見交換する会議【業務会議】を毎月実施。 		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用前に必ず本人とお会い（面談）する。自宅、サービス事業所、入院先等へ訪問。 ・本人、家族から自宅での生活スタイルや興味のある事等の情報収集を行い、チームで共有。ケアに繋げている。センター方式シート活用。 		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用前に必ず家族とお会い（面談）する。 ・家族からの情報（日常生活のご様子、習慣、家族のニーズ等）、思いを聞きとり、早期の信頼関係構築に努めている。 ・入居後の生活等について、写真等を用いて事前に説明し、イメージを掴んでもらう。 		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人・家族の思いを把握し、他職種との連携をとり、必要なサービスが利用できるよう支援・情報提供している。 ・利用者の状態に応じて、グループホーム以外のサービス利用を勧めることもある。 		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活において家事、レクリエーションを中心に利用者の得意なこと、生活の知恵等を職員が教わっている。調理方法、洗濯干し、洗濯たたみ、掃除の仕方、縫い物等。 ・生活の中で本人が自信を取り戻せる（意欲が持てる）ことを意識した支援をしている。 		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前から家族の関わり（役割）の重要性について説明。入居も関わり継続依頼。 ・本人の状態の変化やご様子、良かったことや新たな発見等、面会時や電話等で伝達。情報の共有に努めている。 ・主役行事等への積極的な家族参加勧めている。 		

20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れたなじみの場所に行き、なじみの人に会って話しをしたりしている。 ・家族、友人と電話で話したいときに話せるよう事前に先方の都合が良い時間帯を確認の上、取り次いでいる。 	<p>常に関係継続の支援を考え1人ひとりの思いに寄り添い、遠方にも職員が同行するなどしています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う方々と楽しく過ごせる座席の検討。共通の話題提供等に留意している。 ・レクリエーション、行事、家事等、互いに交友が図れる環境整備（仕掛けづくり）に、職員全体で意識して努めている。 	/	/
22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・契約終了しても、利用者の見舞いに行ったり、訃報の連絡が入れば、通夜等に参列している。 ・退居者の家族へ、近況確認の連絡。 ・契約終了後、他施設に移動する場合も、依頼があれば、できる限りの情報提供に努めている。 	/	/

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人のやりたい事、行きたい所等ヒアリング。主役行事等活用して、夢の実現に努めている。 ・言葉に上手く表現できない方に対しても、本人の表情や家族からの情報収集等も勘案し、取り組んでいる。 	利用者の希望を把握する為に努力し、主役行事として夢の実現に取り組み多くの笑顔がみられています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・家族、親戚、ケアマネ、他のサービス機関等からの情報を得ている。 ・入居後も家庭訪問等して、その方を知る（理解する）ことに努めている。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の言動から、睡眠、排泄、食事、体調面の変化等を把握するように支援している。 ・1日2回バイタル測定。 ・本人のできる事（できない事）、やりたい事（やりたくない事）の把握。プランに落とし込む。 		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族の希望を取り入れて反映している。 ・普段の言動や訴えの内容から、生活歴、拘り、ニーズ等抽出。プランに反映させている。 ・本人の心身の状況が変化すれば、職員間で話し合い、本人・家族等の意見を基に、計画作成担当者が新たなプランを立案。本人・家族の同意を得ている。 	チームで話し合いを持ちニーズを取り入れたケアプランを作成し、職員全員がプランを把握しケアに生かしています。モニタリングもきっちりされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランを盛り込んだ個人記録用紙に日々のケアやサービスの様子を記入。3ヶ月ごとにケース会議を実施して、ケアプランの振り返り。 ・個人記録用紙にプランとサービス内容を落とし込むことで、チーム全体がその目標達成を意識した支援につながっている。 		

28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々には生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 併設事業のPTにグループホーム利用者の身体状況を見て頂き、リハビリ体操や介助動作の確認等、職員への指導・助言を受けている。 入院等による空きベッドを利用し、ショートステイ実施。在宅介護の負担軽減に努める。 		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の消防署との避難訓練を実施。防災、救命救急についても指導を受ける。 地域の学生(小・中・高校生)の福祉体験学習を積極的に受け入れている。 利用者の心身の状態に合わせ、福祉機器の活用も検討し、取り入れている。 利用者のBPSDに対するアプローチについて、同法人ケアプランセンター、地域包括支援センターに助言求める。 <p>地域の保健師とのつながりができた。</p>		
30	<p>11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> かかりつけ医による定期的な診療あり。24時間連絡可能な体制にある。 内科1回/週、歯科2回/月、口腔ケア2回/月、眼科1回/月。 全利用者の主治医把握。随時、相談している。 	<p>利用前からのかかりつけ医の受診も可能ですが、提携している医院から週に1度往診があり、24時間連絡が可能な体制になっています。他に眼科や歯科の往診があり、ご利用者や家族の安心につながっており、適切な医療が受けられるように支援されています。</p>	
31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> 専任の看護職員を配置(常勤換算0.8)。 朝夕の申し送りに利用者の状態を報告。 看護職員によるバイタル測定実施。 状態の変化や急変時には、かかりつけ医に連絡し、専門的な指示を仰いでいる。 		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 遅くても翌日には、看護サマリや情報提供シートを、入院先の病院へ送付又は持参。 退院時には関係書類を受けとり、不明な点は、病院関係者へ連絡して確認。状態把握と安心した生活を送れるよう環境整備に努めている。 		

33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に指針の説明を行い理解を得る。 ・利用者の状況をこまめに家族へ連絡している。 ・重度化した方の介助方法等について、職員間で周知し、同様の対応がとれるように研修等でも、情報共有を図っている。 ・かかりつけ医とも密に連絡をとっている。 	<p>重度化した場合でも希望により看取りができるように職員の勉強会を行い、家族との連携を常にはかりながら意向に沿った終末期を送れるように配慮されています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応について、看護職員より定期的に研修（シミュレーション）を実施し、知識・技術を習得している。 ・緊急時対応マニュアル作成。緊急時の対応を周知徹底している。 	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練を年に2回行っている。 ・災害対応マニュアル作成。職員へ周知徹底。 ・災害に備え、水や補助食を倉庫に各ユニット利用者＋職員分 備蓄している。 ・委託業者へ災害時の対応について確認済。 	<p>消防訓練はもちろん、災害に対しても備蓄など対策を整えており、地域とも協力体制ができています。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フロア理念に掲げ、朝礼で唱和している。 ・内部研修、会議等でプライバシーに関する職員の意識向上に努めている。 ・入浴は、基本的に個別に行っている。 ・個人情報に関しては必ずファイリングして保管している。 	<p>1人ひとりの声かけに対してプライバシーを守り、さりげなく優しい対応を実践されています。内部研修や会議等で職員同士が意識向上に努めています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中でも、利用者の個性を尊重する為に、指示的な言葉かけはせず、相手が選択できる問いかけを、職員は心掛けている。 ・職員への周知徹底を図る為、フロア理念に掲げ、朝礼時に唱和している。 		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりに合わせたペースで、急がすことなく支援しています。 ・本人の気持ちを優先している。 ・その日の利用者の健康状態や天候等に合わせ、臨機応変に対応できるように取り組んでいる。 		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・洋服は、本人の好みで選択して頂けるようアプローチ。 ・本人が持っている化粧用品やスカーフ等を活用し、おしゃれを支援している。 ・髪型も、カットやカラー、パーマ等本人希望を確認して実施している。 		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食、昼食は、利用者と共に各フロアで調理。利用者が自然な形で意欲的に関わりが持てるように、声かけや動機付けに留意している。 ・職員も利用者と同じテーブルと一緒に食事。 ・利用者の誕生日には、本人の好みを聞き、メニューに組み込んでいます。 	<p>朝・昼は利用者と共に調理や盛り付けを行っています。職員も一緒にテーブルで会話も弾み楽しく食事ができるような雰囲気作りを大切にされています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスは、同法人施設の管理栄養士が作成したメニューを参考に調理し提供。 ・水分摂取量は、チェック表にて全利用者管理。水分の少ない方には、本人の嗜好の良いものを提供し、水分補給に努めている。 ・嚥下困難な方、食の進みが悪い方等にはお粥・おにぎり・ミキサー食・刻み食・超刻み食で提供。水分はお茶ゼリーを提供する方もいる。 		

42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけの歯科により、2週間に1回、口腔内のケア（チェック）を受けている。 ・毎食後に口腔ケアの声かけを行い、自力で実施。困難な方には、ブラッシング、ガーゼ、義歯の洗浄等、口腔内の清潔保持に努めている。 		
43	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の排泄パターンを把握。お声かけをしてトイレ誘導を行っている。 ・訴えが困難な方には、早めにサインを把握し、さりげなくトイレ誘導を行っている。 ・トイレの場所をわかりやすく表示。 	<p>プライバシーに配慮し自然な声かけ・誘導を行っています。トイレの場所を示す表示もわかりやすく工夫されています。一人ひとりの排泄リズムやケアの方法を検討され、出来るだけトイレでの排泄を心がけておられます。</p>	
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水分、繊維物、乳製品を多く摂取してもらえるよう、メニューも工夫している。 ・日中、生活リハビリや身体を動かしたレクで、活動的に過ごして頂けるような支援を行い、できるだけ自然排便を促している。 ・全利用者の排便状況の把握に努め、排便回数によって個々に応じた対応を行っている。 		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最低週2回入浴。希望のある方は週3回以上。 ・午後からの入浴や寝る前に入りたい方等は、事前に意向を聞き取り、本人のタイミングで入浴して頂けるような支援をしている。 	<p>入浴日や入浴時間はある程度決まっていますが、利用者の状態に応じていつでも入浴して頂けるように支援されています。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日中はレクリエーションやリハビリ等、身体を動かし活動的に過ごし、夜はゆっくり休めるように環境整備にも配慮している。室温・照明の調整、入眠・起床時間等。 ・夜なかなか眠れない方には、温乳を勧めたり、職員が傾聴して、不安の軽減等に努めている。 		

47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々の服薬ファイル作成。変更後は必ず差し替え、職員へ伝達している。 ・服薬は職員自身が、服薬袋の日付、服用時間、利用者氏名を声に出し確認。周囲の職員にも氏名を目視してもらい服薬介助。 ・利用者にも氏名を読み上げ、本人確認。口腔内にこぼさず投与する。嚥下・口腔内に服薬物が残っていないか確認している。 ・薬の変更や新しい薬が追加された時には、状態の変化（副作用の症状有無等）を注意して観察している。 		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のできる事を把握し、食器洗い、調理準備、盛り付け、洗濯干し、洗濯たたみ、居室・廊下の掃除等、本人の気持ちを優先（確認）しながら取り組んで頂いている。プランにも盛り込み、チームで支援している。 ・行事（新年会、盆踊り、クリスマス会）等にお酒の提供もしている。 		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣への外出（散歩）は、天気が良ければ、風邪等に留意しながら、年間通し行っている。 ・ドライブ、スーパーやデパートへの買い物等、利用者の要望に沿って一緒に外出する機会を設けている。 ・2ヶ月に1度は、外食会を実施。本人の食べたいものを聞き計画している。 	<p>天気が良い日は常に外出を心がけており、近くの公園の散歩や、スーパーや商店街への買い物、外食などを楽しまれています。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小額（1～2万円）のお金を持っている方もおられ、各自で管理している。 ・買い物に行き、本人の好きな（嗜好品）や日用品を購入する際、お金の支払いは、自分でしてもらっている。 		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で携帯電話を持ち込み、本人がかけたい時にかけている利用者もあり。 ・電話のない方も希望があればホームの電話でかけてもらっている。 ・手紙や年賀状等、本人の自筆で思いを書いてもらっている。 		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂内の採光もよく、ソファ、テレビ、本、ラジカセ等を置き、くつろいで過ごして頂けるように工夫している。 ・フロアには四季に応じた雰囲気づくりの為、利用者と職員が一緒になって、飾りつけや掲示物の作成に取り組んでいる。 ・廊下に行事等の写真を掲示。利用者・職員のコミュニケーションツールの一つとなっている。 	<p>食堂・リビングとも大きな窓やベランダがあり、明るく開放的な雰囲気があります。また、笑顔の写真が多く飾られておりそれぞれの好きな場所で会話が弾んでいます。雛人形を飾り、生活感や季節感を感じられるように配慮されています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂内にテーブルとイスを点在して設置。ソファも置くことで、利用者が気分に合わせて、自由に移動して各々の場所で気の合う者同士お喋りしながら、くつろげる空間を提供している。 		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅で使用していた、なじみの家具、食器、テレビや家族の写真等を持ち込み、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている 	<p>自宅で使用していたなじみの家具・テレビ等を持ちこまれたりしています。家族と一緒に衣類の整理ができたりと安心感があり落ち着けるプライベートの居室環境を大切にされています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全館バリアフリーで段差がない。 ・廊下、トイレ、浴室に手すりを設置。自立への配慮をしている。 ・テラスを自由に行き来し、積極的に洗濯物等、利用者自身が行える環境を作っている。 ・建物外周に季節の草木を植え、近隣外出時等、観賞したり、摘んでフロアに飾る等している。 ・天気の良い日は、テラスを活用してお茶を飲んだり、お喋りをしたりしている。 		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない

62	利用者は、その時々 の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と
			②利用者の3分の2くらいと
			③利用者の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が
			②家族の3分の2くらいが
			③家族の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない